

重点プロジェクトの推進

本学の特徴を生かした5つの研究を「重点プロジェクト」として推進しています。

平成27年度の主な研究成果

サルを用いた研究

緑色蛍光タンパク(GFP)を発光する遺伝子組換えカニクイザル1頭を得ることに世界で初めて成功しました。更に外見からGFPの発現を判断することができない4頭のカニクイザルを得ましたが、全て遺伝子組換え個体でした。



GFPを発現するカニクイザル：左と野生型カニクイザル：右

神経難病研究

本学で開発した化合物Shiga-Y5がアルツハイマー病の治療効果を持つことを動物実験で明らかにし、国際学術誌で発表しました。この研究成果は、文部科学省新学術領域班会議「脳内環境」からプレスリリースされました。

生活習慣病医学

糖尿病性腎症進展・腎機能悪化の臨床診断マーカーとしてカリウム摂取量を新たに同定しました。糖尿病における低血糖リスク、合併症と中心動揺などの関連を看護学科と共同研究を行い、いずれも論文を発表しました。

総合がん医療推進研究

肺がんペプチドワクチン療法医師主導治験を完遂し、がんのバイオマーカーや個別化医療の開発研究の成果を国際学術誌4報(Scientific Report. 2016他)に掲載されました。

バイオメディカル・イノベーションセンター

臨床導入準備中のマイクロ波手術デバイス試作機は、切除と縫合の機能を併せ持ち、1つの機器で肝臓や脾臓の部分切除ができる手術手技を開発しました。

保健文化賞*を受賞

上島弘嗣名誉教授(医学部社会医学講座前教授、現アジア疫学研究センター特任教授)が、NIPPON DATAなど長年にわたる循環器疫学研究の成果とそれに基づく公衆衛生活動が高く評価され、第67回「保健文化賞」を受賞しました。

*保健文化賞とは：保健衛生分野において権威ある賞として認められており、健康増進、疾病予防などの保健医療分野、高齢者・障害者の保健福祉分野、少子化対策等の多岐の分野において顕著な実績を残された団体および個人を表彰しているもの。



贈呈式の様子



上島名誉教授

上田賞を受賞

アジア疫学研究センター久松隆史特任助教が、2015年日本心臓病学会「上田賞」を受賞しました。この賞は、最近1年間に「Journal of Cardiology」「日本心臓病学会誌」に掲載された原著論文の中から最優秀論文を顕彰するものです。

本年度の最優秀論文「上田賞」に選ばれた久松特任助教の論文は本学社会医学講座(公衆衛生学部門)三浦克之教授が代表を務める厚生労働省研究班(指定研究) NIPPON DATA研究からの研究報告です。

[High long-chain n-3 fatty acid intake attenuates the effect of high resting heart rate on cardiovascular mortality risk: A 24-year follow-up of Japanese general population. (Journal of Cardiology. 2014;64(3):218-24.)]



授賞式の様子



久松特任助教

大学発ベンチャー表彰*特別賞を受賞

医学部精神医学講座山田尚登教授(現 理事)の臨床研究で取得した研究成果を活用した「脳波からうつ病の診断基準を導きだす」という新規性のある発明(企業名:スリープウェル株式会社)が特別賞を受賞しました。

*大学発ベンチャー表彰とは：国立研究開発法人科学技術振興機構及び国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構が主催する大学等の成果を活用して起業した大学発ベンチャーのうち、今後の活躍が期待される優れた大学発ベンチャーを表彰するとともに、特にその成長に寄与した大学や企業等を表彰しているもの。